

新学習指導要領の円滑な実施を支える「主体的・対話的で深い学び」実現のための授業改善とカリキュラム・マネジメントの研究

総合教育センターALPT

子どもの資質・能力の育成

1. 「主体的・対話的で深い学び」の実現（授業設計診断の4項目）



よりよい
授業づくり

学習評価
の充実

2. 指導と評価の一体化



3. 校内研修（授業設計と学習評価の改善サイクルをまわす授業研究）文化の醸成・発展

授業前後理解比較法

学習過程可視化法

カリキュラム・マネジメントの推進

研究の目的

本県の全ての学校において、全ての教員が子どもの資質・能力の育成を目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組むと同時に、組織の授業力向上を図るカリキュラム・マネジメントを推進する。

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業設計の段階で意識すべき要素を4項目の視点から分析し、授業改善の視点についての知見を得る。

② 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教員の授業力向上のために有効な研修内容を開発・提案する。

③ カリキュラム・マネジメントの推進に向け、4項目を活用した、組織の授業力向上を図る校内研修運営方法についての知見を得る。

④ 学校組織としての研修文化の醸成や授業力向上と、（子どもの）教室文化の醸成との関連性を明らかにする。

⑤ 本研究の成果を、センターの研修に生かし、広く学校及び教職員に還元する。

具現化の柱

各種研修

新学習指導要領対応授業改善推進サポート研修

高等学校

特別支援学校

希望研修

小・中

高校

特支

授業設計診断

カリマネ

学習科学

研究協力校

焼津市立大井川中学校（H30-R2）

御殿場高等学校（H30-R1）

磐田農業高等学校（R1-3）

浜名高等学校（H30-R1）

動画コンテンツ作成



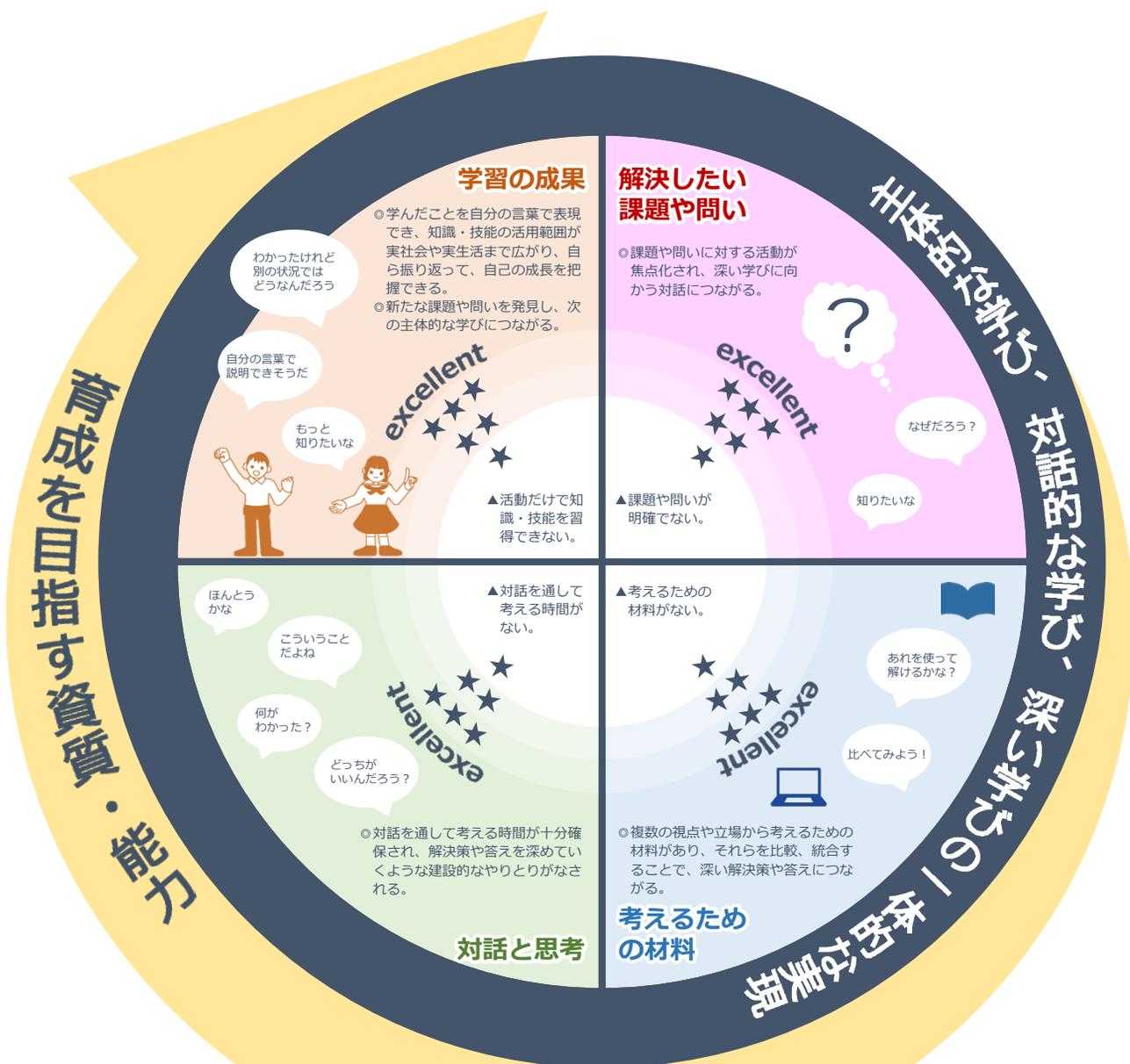
「主体的・対話的で深い学び」の実現

「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善

平成29年度版

＜小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通＞

新しい時代を切り拓く資質・能力を引き出し、高める



子供たちが「どのように学ぶか」に焦点を当て、

- 解決したい課題や問い
 - 考えるための材料
 - 対話と思考
 - 学習の成果
- を意識して授業を設計しましょう！

上の図は、「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善を図式化したものです。図の中の子供たちのつぶやきは、学びの過程で湧き上がってくる手応え（学びの実感）を表現しています。子供たち一人一人の可能性を伸ばし、新しい時代に求められる資質・能力を確実に育成していくためには、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの過程を一体として実現することが必要です。そうした学びの過程を実現する一つの方法として、「解決したい課題や問い」、「考えるための材料」、「対話と思考」、「学習の成果」を意識しながら、授業設計することを提案します。目指す授業設計はexcellentです。詳細はリーフレットの中をご覧ください。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業設計診断 別紙2

次の表は、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、「アクティブ・ラーニング」の視点から授業設計を診断するものです。各項目とも「★」から「excellent」に向かって確認してください。子供たちが習得した概念や思考力等を、手段として活用・発揮させながら学習に取り組み、その中で資質・能力の活用と育成が繰り返されるような指導の創意工夫を促していくことが大切です。各教科等の特質に応じた物事を捉える視点や考え方（見方・考え方）を働かせることが、学びの「深まり」の鍵になります。また、子供一人一人の興味や関心、発達や学習の課題等を踏まえ、それぞれの個性に応じた学びを引き出し、一人一人の資質・能力を高めていくことが重要です。授業や単元の流れに子供の「主体的・対話的で深い学び」の過程が実現する授業設計を意識しましょう。

項目	★	★★	★★★	excellent
解決したい課題や問い 	<p>▲課題や問いが明確ではない。</p> <input type="checkbox"/>	<p>△課題や問いはあるが、解決に対話が必要としない。</p> <input type="checkbox"/>	<p>○課題や問いがあり、解決に対話が必要である。</p> <p>△課題や問いに対する活動の幅が広すぎて、活動が焦点化されにくい。</p> <input type="checkbox"/>	<p>◎課題や問いに対する活動が焦点化され、深い学びに向かう対話につながる。</p>  <input type="checkbox"/>
考えるための材料 	<p>▲考えるための材料がない。</p> <p>材料とは、資料、道具、教材など教師が事前に準備しておくもの。</p> <input type="checkbox"/>	<p>△考えるための材料はあるが、課題や問いに対する解決策が明示されてしまっている。</p> <p>△材料や解決策を、事前に教師が説明してしまう。</p> <input type="checkbox"/>	<p>○複数の視点や立場から考えるための材料がある。</p> <p>△限定的な考えに誘導するものである。</p> <input type="checkbox"/>	<p>◎複数の視点や立場から考えるための材料があり、それらと比較、統合することで、深い解決策や答えにつながる。</p>  <input type="checkbox"/>
対話と思考 	<p>▲対話を通して考える時間がない。</p> <p>対話とは、課題や問いに沿って考えが広がったり深まったりする言葉のやりとりのこと。</p> <input type="checkbox"/>	<p>△対話を通して考える時間が確保されているが、各自がまとめた内容を紹介するだけである。</p> <input type="checkbox"/>	<p>○対話を通して考える時間が確保されている。</p> <p>△教師の過度な助言により、対話や思考が抑制されてしまう。</p> <input type="checkbox"/>	<p>◎対話を通して考える時間が十分確保され、解決策や答えを深めていくような建設的なやりとりがなされる。</p>  <input type="checkbox"/>
学習の成果 	<p>▲活動だけで知識・技能を習得できない。</p> <input type="checkbox"/>	<p>△知識・技能の活用範囲が狭い形の習得にとどまっている。</p> <input type="checkbox"/>	<p>○学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が広がり、振り返りを通して、自己の成長を把握できる。</p> <p>△課題や問いを解決することで満足し、そこに新たな課題や問いが生まれにくい。</p> <input type="checkbox"/>	<p>◎学んだことを自分の言葉で表現でき、知識・技能の活用範囲が実社会や実生活まで広がり、自ら振り返って、自己の成長を把握できる。</p> <p>◎新たな課題や問いを発見し、次の主体的な学びにつながる。</p>  <input type="checkbox"/>

各教科等による「主体的・対話的で深い学び」の積み重ねにより、子供の資質・能力が育成され、多様な他者と協働して課題を解決していく教室文化（子供たちが学級において共有している行動様式や生活様式）が醸成されているか診断してみましょう。「学級の全員が、互いに互いのことを、よりよい学級や社会を創るための、学びを深める大事な仲間と思うようになっている」は、特に成熟した学級と言えます。子供たちが互いの異なる考えを尊重し、これからのよりよい社会を様々な人々と共に創造できるようにしたいものです。

		いない		いる		
		0	1	2	3	
教室における安心感 	1	間違いを言うてはいけないという雰囲気なくなり、安心して自分の意見を言えるようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2	自分の意見を相手にわかってもらいたいと思ひ、発言するようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3	相手がどんな意見をもっているのかに関心をもち、その意見を聞こうとするようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
よりよい学級を創る学びの態度 	4	資料から情報を単に読み取るだけでなく、それを解釈するようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	5	わからないことをそのままにせず、積極的に質問するようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	6	与えられた課題や問いに答えるだけでなく、新たな課題や問いを発見するようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	7	学んだことを日常生活や社会と関連付けて生かそうとするようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
学び合い 支え合う仲間		学級の全員が、互いに互いのことを、よりよい学級や社会を創るための、学びを深める大事な仲間と思うようになっている。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

「主体的・対話的で深い学び」とは何か

（平成28年12月21日「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より）

- ①学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。
- ②子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。
- ③習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。

■研究協力者

聖心女子大学 文学部教育学科 教授
静岡大学大学院教育研究科附属学習科学研究教育センター（RECLS）学外協力研究員

益川 弘如 先生

このリーフレットには、児童生徒一人ひとりが、自分なりに各教科を好きになり深く学び続けたいような、学習に関する科学的知見が詰め込まれています。是非、各先生の授業づくりや校内研修に活用して下さい。例えば、研修等で学習指導案を作成するときに複数人で授業設計診断を用いてチェックすることで、より深い学びを引き出す学習指導案になるでしょう。そのときに、具体的に児童生徒が「どのような対話をしようか」をシミュレーションしてみてください。そして授業終了時に、児童生徒たちがどのような「ことば」で語るだろうかを具体的に検討し、それを評価指標にすることが、指導と評価の一体化につながるでしょう。児童生徒にとって一つの授業は部品であり、各教科や行事を横断的・総合的に学んでいきます。そのような視点から、ICTや地域の資源を活用しながら、各教科の内容や学び方が分断されず、一体的に深く学んでゆける環境をいかに構築するかの視点も重要となるでしょう。

東京大学 高大接続研究開発センター 教授
大学発教育支援コンソーシアム推進機構（CoREF）
文部科学省 国立教育政策研究所 フェロー

白水 始 先生

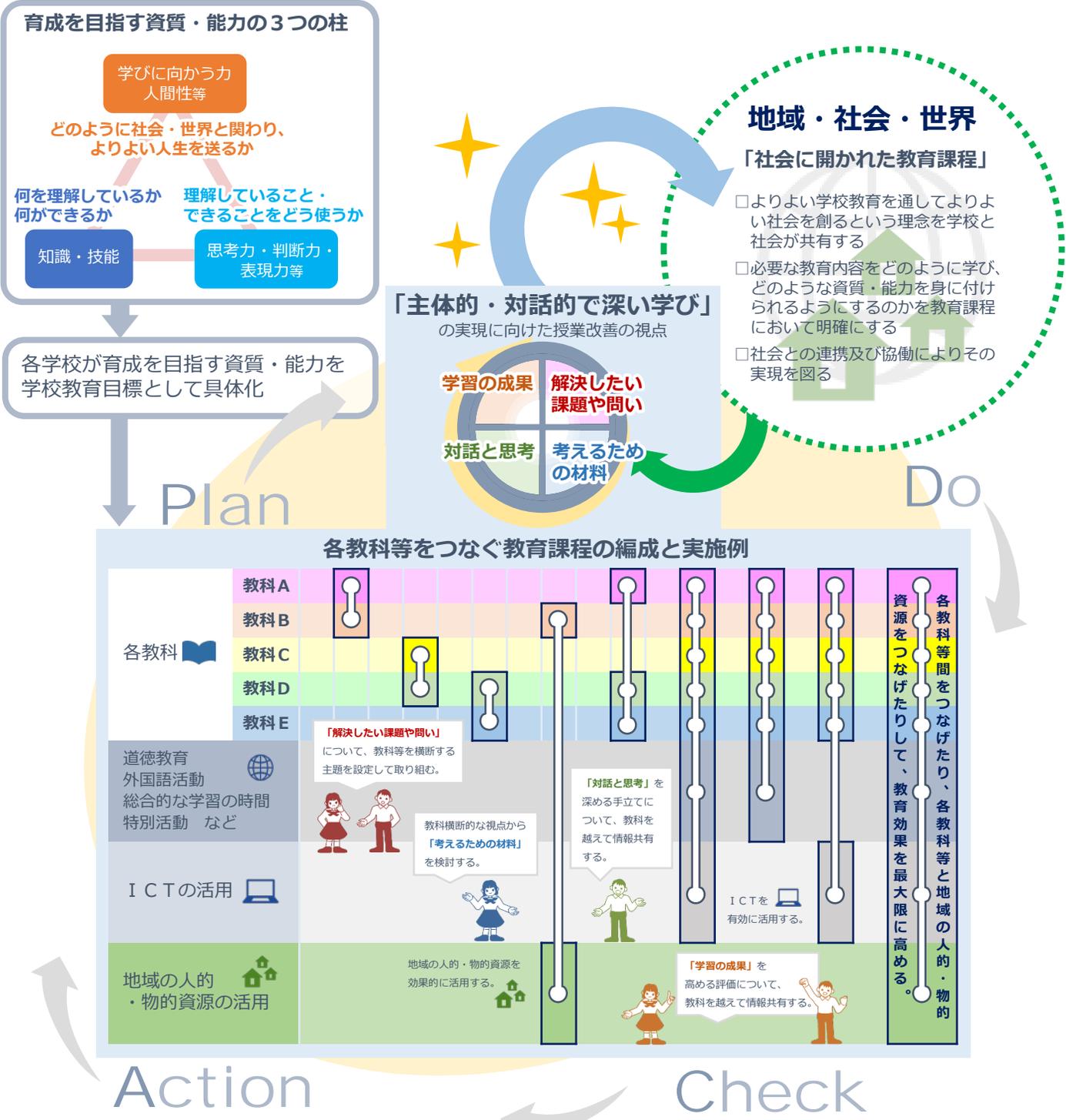
平成29年に新学習指導要領が公表されます。そこでは、学校教育において児童生徒に育む資質・能力の「三つの柱」が「個別の知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」と整理され、これを引き出ししながら伸ばしていく「主体的・対話的で深い学び」の重要性が指摘されています。その公表に合わせて、2年目を迎えたこのリーフレットも改訂されました。先生方の学校現場では、この1年間でどのような「主体的・対話的で深い学び」が積み重ねられたのでしょうか。すべての子どもが学んだことの意味が分かって先を見通せるような授業、教科等の本質をつかみながら、その見方・考え方も身に付け、自分のその先の学習を一層深く面白くするような授業はできてきたのでしょうか。子どもたちが学べば学ぶほど自分らしさが出てきて、仲間と違う自分のよさを追求できるような環境は用意できたのでしょうか。それと同じように先生方の学びも多様に豊かになってきているのでしょうか。多様性を感じるためには、共通言語が必要です。このリーフレットを基にした先生方の教育実践が、そうした共通言語の役割を果たすことを期待します。

「カリキュラム・マネジメント」の実現

学校教育目標を実現するために、教育課程を編成し、それを実施・評価・改善していく営み 平成29年度版

＜小学校、中学校、高等学校、特別支援学校共通＞

教育課程を軸に学校教育の改善・充実の好循環を生み出す



上の図は、教育課程を軸にした、学校教育の改善・充実の好循環を図式化したものです。「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、子供たち一人一人の資質・能力を確実に育成していくためには、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成り立たせていくことが重要です。各学校が子供たちの姿や地域の実情等を踏まえつつ、校長を中心に、全ての教員が教科等や学年を越えて学校全体でPDCAサイクルを確立して教育活動に取り組むことが、子供たちの「主体的・対話的で深い学び」を実現することにつながります。

「主体的・対話的で深い学び」とカリキュラム・マネジメントに関する調査

回答日	月	日	研修員 番号	学校名	氏名
-----	---	---	-----------	-----	----

この調査は、総合教育センター アクティブ・ラーニングプロジェクトチーム における「主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメント」に関する研究のために行うものです。調査結果は研究目的以外には使用しません。

御自身の属性について、ご回答ください。

校種	1. 中学校 2. 高等学校	1 2
経験年数	1. 1～5年 2. 6～10年 3. 11～20年 4. 21年以上	1 2 3 4
担当教科	1. 国語 2. 社会(地歴・公民) 3. 算数・数学 4. 理科 5. 外国語 6. 技術家庭(家庭) 7. 保健体育 8. 図工美術音楽(芸術) 9. (高校のみ)産業(情農工商水福)	1 2 3 4 5 6 7 8 9
(所属校)1学年の規模	1. 1学級 2. 2～3学級 3. 4～5学級 4. 6～7学級 5. 8学級以上	1 2 3 4 5
(所属校) 授業研究に係る校内研修の回数	1. 1回 2. 2～3回 3. 4～5回 4. 6～7回 5. 8回以上	1 2 3 4 5

次の設問について、日頃の教育活動で意識している程度をご回答ください。(以下は御自身について回答) よく当てはまる ← → 全く当てはまらない

(所属校では、)目指す学校像に基づき、自校の児童生徒に育成すべき資質・能力を明確化している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)教科・学年・分掌等を超えて、自校の児童生徒に育成すべき資質・能力を共有している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)自校の児童生徒に育成すべき資質・能力を基に、各教科等で児童生徒に育成すべき資質・能力を具体化している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
各教科等で児童生徒に育成すべき資質・能力を踏まえて、単元の目標を設定し、単元を構想している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
児童生徒の実態に合わせて、課題(問い)への興味、関心や難易度について吟味している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
一人の力では解決が難しく、他者と協働しなければならないような課題(問い)を設定している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
授業実施前の設計段階において、課題(問い)に対する児童生徒の反応、対話や、答えについて想定している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
全ての児童生徒が対話等の学習活動に参加するために必要な材料を事前に準備している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
複数の視点や立場から考え、比較、統合することで解決策や答えにつながるような材料を準備している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
児童生徒の対話を促進する教室環境(グループ編成や座席配置等)を整備している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
児童生徒の思考を可視化する教具(ICT・ホワイトボード等)を工夫している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
対話において、児童生徒同士の建設的なやり取りがなされるよう工夫している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
児童生徒が自ら学びを振り返り、自己の成長を把握するために、自分の言葉で表現させる場を設けている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
課題(問い)に取り組むことにより、得られた知識・技能の活用範囲が実社会や実生活まで広がるのが想定できる授業になっている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
児童生徒が課題(問い)に対する授業開始時と授業終了時の考えをまとめる機会を設定している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
授業実施後に、児童生徒の課題(問い)に対するあらわれ(授業開始時・学習の過程・授業終了時)を比較・分析し、次の授業に生かしている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
互いの失敗や間違いが許され、わからないことを積極的に言える雰囲気づくりを意識している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
一人ひとりが学びを深める大事な仲間であると思える学習集団をつくっている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)校内研修により、教員全員で授業改善に取り組む風土がある。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)校内研修により、児童生徒主体の学びを大切にしようとする考え方を共有している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1

次の設問について、その理由と併せてご回答ください。

⑲ 御自身の授業づくりに授業設計診断を活用していますか。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(理由)	
⑳ 授業設計診断は「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりに役立っていますか。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(理由)	
㉑ 児童生徒のあらわれを把握する学習評価の工夫は、御自身の授業改善や、授業の質を高めることにつながっていますか。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(理由)	

ご協力ありがとうございました。

「主体的・対話的で深い学び」とカリキュラム・マネジメントに関する調査

回答日	月	日	研修員 番号	学校名	氏名
-----	---	---	-----------	-----	----

この調査は、総合教育センター アクティブ・ラーニングプロジェクトチーム における「主体的・対話的で深い学びとカリキュラム・マネジメント」に関する研究のために行うものです。調査結果は研究目的以外には使用しません。

御自身の属性について、ご回答ください。

学部	1. 幼稚部 2. 小学部 3. 中学部 4. 高等部 5. 訪問教育 6. その他()	1 - 2 - 3 - 4 - 5 - 6
経験年数	1. 1～5年 2. 6～10年 3. 11～20年 4. 21年以上	1 - 2 - 3 - 4
教育課程	1. 準ずる 2. 知的代替 3. 知的代替(肢体) 4. 自立活動	1 - 2 - 3 - 4

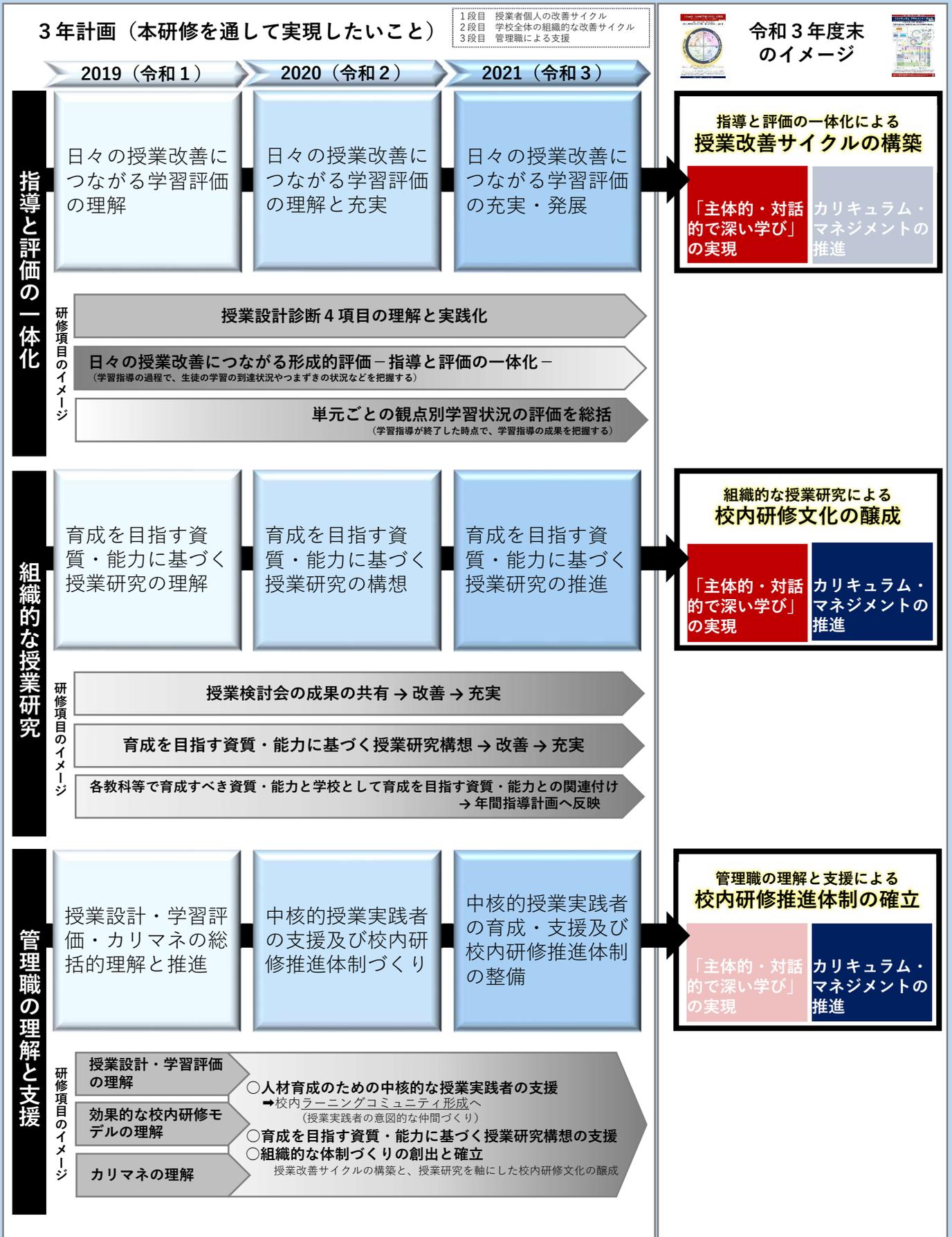
次の設問について、日頃の教育活動で意識している程度をご回答ください。(以外は御自身について回答) よく当てはまる 全くあてはまらない

(所属校では、)目指す学校像に基づき、自校の幼児児童生徒に育成すべき資質・能力を明確化している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)教科・学年・分掌等を超えて、自校の幼児児童生徒に育成すべき資質・能力を共有している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)自校の幼児児童生徒に育成すべき資質・能力を基に、各教科等で幼児児童生徒に育成すべき資質・能力を具体化している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
各教科等で幼児児童生徒に育成すべき資質・能力を踏まえて、単元の目標を設定し、単元を構想している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
幼児児童生徒の実態に合わせて、課題(問い)への興味、関心や難易度について吟味している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
他者と協働して解決していく課題(問い)を設定している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
授業実施前の設計段階において、課題(問い)に対する幼児児童生徒の反応、対話や、答えについて想定している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
全ての幼児児童生徒が学習活動に参加するために必要な材料を事前に準備している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
幼児児童生徒の(教材や他者等との)対話を促進する学習環境を準備している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
幼児児童生徒の思考を可視化(教師による幼児児童生徒のあらわれの言語化等も含む)して授業に生かす工夫をしている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
幼児児童生徒同士の建設的なやり取りがなされるよう工夫している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
幼児児童生徒が自ら学びを振り返り、自己の成長を実感するために、表現する場を設けている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
課題(問い)に取り組むことにより、得られた知識・技能の活用範囲が実社会や実生活まで広がるのが想定できる授業になっている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
幼児児童生徒が課題(問い)に対する考えをまとめる機会を授業終了時に設定している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
授業実施後に、幼児児童生徒の課題(問い)に対するあらわれ(授業開始時・学習の過程・授業終了時)を比較・分析し、次の授業に生かしている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
一人ひとりが学びを深める大事な仲間であると思える学習集団をつくっている。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)校内研修により、教員全員で授業改善に取り組む風土がある。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(所属校では、)校内研修により、幼児児童生徒主体の学びを大切にしようとする考え方を共有している。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1

次の設問について、その理由と併せてご回答ください。

御自身の授業づくりに授業設計診断を活用していますか。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(理由)	
授業設計診断は「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業づくりに役立っていますか。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(理由)	
⑲ 幼児児童生徒のあらわれを把握する学習評価の工夫は、御自身の授業改善や、授業の質を高めることにつながっていますか。	6 - 5 - 4 - 3 - 2 - 1
(理由)	
⑳ (御自身の授業について、裏面の授業設計診断を実施していただいた後でお答えください。)裏面のようにチェックした理由をお書きください。	
(理由)	

新学習指導要領対応授業改善推進サポート研修（高等学校）3年研修計画【令和元年度末版】
 - 日々の授業改善を目指して -



科学習授業案

MS ゴシック 12p

MS ゴシック 10.5p

授業者

1 日時・場所 令和 年 月 日 () 第 時 年 組 (場所)

2 単元名

表題以外の表記は、
MS 明朝 10.5p

3 単元目標

学習指導要領や解説を踏まえ、観点を押さえて記述する。

- ・ (観点)
- ・ (観点)
- ・ (観点)
- ・ (観点)

4 単元観

子どもの側に立ち、子どもの思いや願いを踏まえながら、捉えた単元の価値や解釈、題材内容の系統性や構造、他教科・領域との関連を記述する。

また、この単元を基に、子どもがどのような活動を通してどのような力を付けるのか、どのような見方考え方を働かせるか、子どもがどのような思考を深め、単元を通してどのように変容していくのか等を記述する。

5 単元計画

単元の時間配当、学習内容、解決したい課題や問い、評価計画を記述する。計画にあったっては、体験的な活動や問題解決的な学習がどのように位置付くのかを構想し、意欲的に取り組むことができるように指導計画を工夫する。また、単元の中での本時を計画に明示する。

時間	目標 (観点)	解決したい課題や問い	学習の成果 (観点)
1			
2			
3 本時			
4			
5			

学習過程可視化法を用いた授業研究（校内研修）について

授業研究（校内研修）のねらい

授業における生徒の表れを根拠に、授業における教師の手立てや支援（単元構想、学習課題、資料などの教材、各種ツール、教師の声掛けなど）の有効性を検証する。

1 授業前（事前研修）について

- ・公開授業における「授業の目標」と、「目標にせまるための教師の手立て」をよく吟味する。模擬授業を行うことなどによる検討を行う。さらに、事後検討会における協議の「視点」の明確化・焦点化・共有化を行う。

2 可視化法シートについて

- ・可視化法シートに、協議の「視点」を明記する。
- ・可視化法シートに、引き出したい生徒の表れ（想定）を明記し、付箋を貼る目安とする。
- ・可視化法シートは、模造紙 1 枚程度におさめ、その中に生徒の表れの分析内容や改善案などを直接書き込んでいく。

3 可視化法の進行方法について

手順	段階	内容
1	研修の流れは？	ファシリテーター（調整役）が、協議内容と時間配分を確認し、見通しを共有する。
2	目標を達成したか？	生徒の表れが、本時の目標に達していたか、確認する。 その際、授業者の想定を参考にする（付箋を貼り始める）
3	生徒の表れは？	課題に対する生徒の表れを参観者から聞き、授業者の想定を参考にしながら、付箋を貼りだす。
4	手立ての有効性は？	1, 2, 3 をもとに、授業者の手立ての有効性（生徒の発言が、授業者の手立てによって生み出されたものであるかどうか）について協議する。 ・生徒の表れが想定通りであれば、授業者の手立ての中で、効果的な手立てを確認する。 ・授業者の想定と実際の生徒の表れとに「ズレ」がある場合は、その原因を探りながら、授業者の手立ての有効性を検証する。
5	改善案は？	4 をもとに、よりよい手立てになるように改善する（改善案を出す）。

「4」「5」の場面において、参観者の「学習観」を出し合ったり深め合ったりする。

4 研修の振り返り

研修を通して学んだことや感想などを振り返り用紙などに書き、次回以降の研修の進め方についての参考資料とする。これにより、研修についての P D C A サイクルを機能させ、研修テーマにより研修を深める。